

平成22年度第4回地域貢献推進委員会議事要旨

○日時：平成23年2月21日（月） 15：30～16：45

○場所：本部管理棟2階第1会議室

○議題：【審議事項】

- ・琉球大学第2期中期目標・計画期間における地域貢献推進方策の策定について
- ・琉球大学地域貢献活動データベースの構築について

【報告事項】

- ・第2期中期目標・中期計画達成のための活動記録シート（様式2）
- ・特別企画版「琉大21世紀フォーラム：ミラクル熟議 in 沖縄」の開催について

○出席者（13名）：平啓介（委員長）井上講四（生涯学習教育研究センター長）、堤純一郎（産学官連携推進機構副機構長）、米盛徳市（教育学部教授）、小賀百樹（理学部准教授）、青木一雄（医学部教授）、有住康則（工学部教授）、諸見里善一（農学部教授）、長嶺勝（熱帯生物圏研究センター准教授）、山元淑乃（留学生センター講師）、我部政明（国際沖縄研究所教授）、金城孝夫（附属図書館事務部長）、大濱善秀（学術国際部地域連携推進課長）

○資料： 1. 第2期中期目標・計画期間における地域貢献推進構想（案）
2. 地域貢献活動データベース構築に係るガイドライン（案）
3. 第2期中期目標・中期計画達成のための活動記録シート（様式2）
4. 「琉大21世紀フォーラム：ミラクル熟議 in 沖縄」パンフレット
「琉大21世紀フォーラム：ミラクル熟議 in 沖縄」実施要項

○列席者：幸地秀利（地域連携推進課長代理）、玉城優里（地域連携推進係員）

まず始めに、平委員長より前回委員会の議事内容について確認があり、議事に対して意見・訂正等があれば、後ほど事務局へ連絡するよう発言があった。

◆ 審議事項 琉球大学第2期中期目標・計画期間における地域貢献推進方策の策定について
井上副委員長より、資料1について次のとおり説明および提案があった。

担当委員に執筆していただいた基本方針の説明文を基にWGで検討を行い、推進方策案を策定した。当初は「推進計画」ということだったが、計画とするにはまだ内容が抽象的だったため、「推進構想」としている。また、前回の委員会で指摘のあった前文についても、大濱委員と調整の上作成し、WGでも検討した。

なお、本推進構想は、地域貢献の全学的な活動を積極的にPRするとともに、その実績を作り上げていくことを目的に策定したものであり、次年度以降は、本推進構想を念頭に

置きながら、計画を実施していきたい。

また、大濱委員より、本構想は、本委員会です承された後、役員会および教育研究評議会にも報告予定である旨、補足説明があった。

審議事項について以下のような意見があったが、文言の修正、語尾の統一等を行い、了承された。

・基本的には平易な言葉で誰が読んでもわかるような文章にした方が良い。また、本委員会の位置づけとしては、全学の中心となり地域貢献活動をするのではなく、取りまとめ・調整等を担い、積極的に情報を提供するような役割であると理解している。

◆審議事項 琉球大学地域貢献活動データベースの構築について

堤副委員長より、資料2について次のとおり説明および提案があった。

WGにて、データベースの構築について検討し、対象期間・対象活動・対象地域等を定めたガイドラインを策定した。対象期間は第2期中期目標期間とし、対象活動は組織として活動していることを原則とし、公共性の高い活動を第一においた。個人の活動等は基本的に含めないこととしたが、講演会等については本人の希望や対象を考慮して判定することとしたい。また、データ収集に関しては本委員会の委員を通して各部局単位で収集を依頼し、各部局から提出されたデータはまず事務局側でチェックする。その際、判定の難しいデータについてはWGにて検討・判定し、その結果を本委員会にて報告し、最終判定とする。なお、データ収集作業は、平成23年4月以降となる予定で、平成22年度の活動からデータ収集を行うこととしたい。

審議事項について以下のような意見・質疑応答があった。

・研究者データベースとの関連はどうか。既存のデータベースを基に、今回のデータベースを作成することになるのか。

→既存の研究者データベースとは別枠で新しく構築することを検討している。個人の業績というより、活動を中心としたまとめ方により、データベースの構築を行いたい。もちろん、共通するデータは、研究者データベースよりリンクすることが理想だが、現在は内部の技術的な問題もあり、難しい状況である。

・作業が二度手間にならないよう、広報からの情報収集と本委員会からの情報収集が重ならないように配慮する必要がある。

・ガイドラインの対象活動でいう『公共性』とはどういうことか。

→対象がオープンになっていることや、組織として実施しているということ等をもって『公共性』としている。これを基準に活動を判定したい。

・研究者データベースから拾えるようなデータはそこから拾うようにすべきであり、そのような作業に人員や資金も費やすべきではないか。内部の技術的な問題があるが、とりあえず作成するというのではなく、その問題をクリアし、効率的に情報を収集できるような仕組みを整えるべきである。

・今まではガイドラインがなかったため、各部局の地域貢献活動に対する考え方や情報の質の違いにより、バラバラな情報が収集・集約されていたが、今回ガイドラインを明瞭にすることで、情報の統一化が可能になる。確かに既存のデータベース等とのリンクも重要だが、これに関してはまだ検討する余地がある。単純に個人の情報を収集すれば全体の情報が完成するというわけではないので、今後、引き続き議論しながら検討していく必要がある。

審議の結果、まずはガイドラインに沿って情報の収集を実施してみること、上記の意見に挙げられたことについても今後のWGで引き続き検討していくということでした。

◆ 報告事項 第2期中期目標・中期計画達成のための活動記録シート（様式2）について
大濱委員より、資料3に基づき、12月～1月の計画進捗状況について、各WGでの取りまとめ・検討状況を記入し評価室に提出した旨報告があり、了承された。

◆ 報告事項 特別企画版「琉大21世紀フォーラム:ミラクル熟議 in 沖縄」の開催について
大濱委員より、資料4に基づき次のとおり報告があった。

文部科学省が今後展開していく事業の流れも受け、琉大21世紀フォーラムの特別企画版として、「熟議」という手法を取り入れたフォーラムを開催する予定である。沖縄では初の試みであり、また、文部科学省としては、これらの結果を受けて今後の政策に反映していきたいとのことである。また、当日の参加を学生に呼びかけていただくよう協力依頼があった。

以上